

高橋美也子先生の

「川渡小学校のまわり」の授業から学ぶこと

1. はじめに

美也子先生は生活科の授業で川渡を取り上げたいと願っていました。

美也子先生は今（2013年2月）大崎市立川渡小学校の2年生の担任です。今は大崎市立ですがちょっと前までは玉造郡鳴子町立で、その前は川渡村立。私は町村合併という名の下に、今宮城県にも「郡」という地名や「村」という地名が消えつつあることがなんとなく寂しいのです。

その川渡には4月から公の役所はなにもなくなるのだそうです。

その玉造郡は軍馬・農耕馬の生産地として有名だったのです。

川渡村は「かけ川渡と言われた」1000年前の平安時代から温泉地として有名な土地だったのです。

2. 国土地理院・住宅地図を使う。

（子どもや先生の作った地図でなくお金で店やさんから買った地図）

美也子先生は地図にこだわっていました。

国土地理院の25,000分の1の地図で

25,000分の1の地図だと

- ・ 川渡小学校の2年生の子どものひとりひとりの「家」が川渡のどこにあるかしっかりとしかめることができる。
- ・ 川渡の中央には江合川（荒尾川）という大きい川が流れている。川渡で笹船を流すと石巻まで流れていきます。
- ・ 羽後街道が江合川に沿って作られていて、日本海かわと太平洋かわをつなぐ街道になっています。秋田藩や弘前藩の大名行列もとったのでしょう。

美也子先生は

生活科の川渡の授業の最初に

25,000分の1の川渡があるところをつなぎました。

そして、江合川に青い色をぬりました。

平地に、田んぼに緑をぬりました。

川渡小学校の2年生の子どもの色塗りとても上手でした。

ていねいにぬってありました。

美也子先生が地図に色塗りをしているからでしょうか。

美也子先生が去年も2年生担当で25000分の1の地図に川や平地の地図塗りをさせたからでしょうか。

地域の勉強は 地形の勉強から

国土地理院の地図を使って

川に 青い色を塗ることから

田んぼに 平地に 緑を塗る

川渡の 土地をつくったのは 江合川です。

3. 川渡の学校のまわりを調べる

川渡といっても広いのです。川渡のどこを重点的に調べるかということが問題です。

川渡のは家並みは 江合川の北側と南側とに分かれています。現在は江合川南の町が中心です。

今川渡地区は昭和の時代には川渡村です。それが昭和37年の町村合併で鳴子町川渡になり平成の合併で大崎市鳴子川渡になりました。

川渡村のころは川渡村役場があったので、役場というものを中心に川渡の地域を調べる計画をたてればよかったのですが、川渡には支所もなくなったのです。

それで、生活科で川渡を調べる地域を「川渡小学校のまわり」ということにしました。

4. 源義経の乗った池月という名馬がいた

源氏の大將 源義経という武士が平家と戦いをしたときに乗った馬が川渡の隣の池月で育てられたのです。

日本と中国の戦争で使われた馬もこの川渡や池月で育てられた

池月や川渡が名馬の産地として有名だったのです。

今東北大学農学部の実習ところとして牛の成育の研究がされていますが戦争中陸軍の軍馬をそだてていたのです。

戦争のときに使う大砲や武器は馬が引っ張ってはこんだのです。軍馬は中国のときの戦争で大きい力を発揮したのです。

農業でも 肥料運び・田掘り・代掻きなどの農耕の作業もみんな馬の力にたよっていたのです。

宮城県には吉岡や中新田など各地に馬市があったのですが、川渡の馬市では軍馬お買い上げとか丈夫な優秀な馬（一等馬）しか売り買いの取引しなかったそうです。

それで、川渡には宮城県内の各地から馬を売る人や馬を買う人がたくさん集まってきたのでした。サーカスなども行われ、地域の人も集まり、出店も多くでて大にぎわいだったそうです。

馬市が行われた場所は今も馬が1頭1頭つながれる小屋で囲まれて残ってい

ます。

馬市が行われた馬検場から温泉通りまで広い通り道が馬市通りと呼ばれています。

馬市のときには江合川の河川敷は馬でいっぱいだったということです。

私も小学校3年生のころに20銭くらいもらって吉岡の馬市に20銭くらいサーカスを見てわたあめを買って食べた思い出があります。

5. 郷土学習で先生がしなければならないこと

1) 地域を歩きまわること

その対象の地域をただなんとなく歩いてみることに。

美也子先生にも川渡小学校の付近を徒歩で歩き回りなさいとすすめておきました。いっばいっばあるいているうちになにかがわかってくることもあるのです。

地域の一軒の家の建物や石や木が何かを教えてくれます。

記念碑が建っていることもあります。これがあったらよく読むか写真をとっておきます。

2) 地域の古老と仲良しになること

人間年をとると知りもしないことをしたかぶりをしておしえたがるものです。その地域のことを聞かれると喜んで教えてくれます。

加藤さんが志戸田用水の授業をするのに志戸田の赤坂三千男さんの家に数十回行って話を聞いたと言っていました。

美也子先生は公民館の館長さんに馬市のお話をきいています。馬市のことをかなりしっていて1時間30分くらいくわしく話してくれて、学校で先生達が研修しているのにおくってしまったということのことです。この公民館の館長さんから話してもらったことはことは美也子先生の授業をする上でかなり力になったよう です。

3) その土地のことを書いた本を探す。

富谷町史 町史 村史 大衡村史 鳴子町史とかこれは各町村でかなり力を入れて書いています。

町村の役場や公民館・図書館にいけば手にはあります。

小学校の郷土学習には必ず役に立つとおもいます。

4) 国土地理院の地図を見る。

25000分の1

50000分の1

学区の地形図を見る

住宅地図を見る

6. 授業の計画をたてる

地域のことを調べる学習では

店屋さんに行って その店のことをいろいろと聞くことがいいです。
地域の店屋さんというのは明治・大正・昭和前期から始まった店が多い
ようです。

地域のお店屋さんで古くて今も商売を続けている店を探す。

その店に行って

- イ) 店がいつのころに始まったか
- ロ) どんなものを売っていたか
- ハ) どこからしなものを仕入れてきたか。

二) その店の移り変わり

店のうつりかわりをする中で、その地域のできごとや変化がわ
かりことがあります。

1) 石巻屋さん 東京屋さん

住宅地図を見て 川渡にいろんな地名のついたお店やさんがあることに
驚きました。

そこで石巻屋さん・東京屋さんを学校のまわりの勉強の対象とすること
にしました。

まず、美也子先生が二軒のお店に伺い、いろいろとお話を伺いました。

その後、子どもをつれて学校のまわり散歩の一部として石巻さんと
東京屋さんに行っていていろいろとおはなししていただきました。

こどもたちのお礼の手紙に返事もいただきました。

石巻屋

美也子先生は子どもたちといっしょに石巻屋さんに行きました。

石巻屋さんというお店の名前はどのようなわけがあるのでしょうか。

と聞きました。

- ・お店をはじめたころ売る物を仕入れるために石巻にいていた。

ほしさかな や ほした海草 や 日用品 をはこんできて

売っていた

疑問 仕入れた商品はどうやって石巻から川渡まではこんだのだろうか

石巻線 陸羽東線の貨車につけてはこんだ

馬車につけて 運んだ

江合川を船で運んだ

仕入れたものは川渡のまわりを馬車につけて売ってあるいた。

日用品 ほしさかな 塩さかな

(石巻という海岸から鳴子という山地まで交流があったのだろうか。)

東京屋

東京から来た人がお店をひらいて
東京のことばでお話をする
めずらしいものが売っていた。

お医者さんはどこにあるかな。

床屋さんはどこにあるかな。

7. 授業で

地図は 住宅地図を使いました。

美也子先生はこの「学校のまわり」ではぜひ住宅地図をつかいたいということでした。

住宅地図にはお店の名前がしっかりかかれています。

1) 学校のまわりの公共機関

黒板に住宅地図貼って 児童が黒板の前にでてきて そこを探するという活動でした。

保育所

公民館

幼稚園

郵便局

子どもたちはかんたんに探していきました。

学校からいくみちすじもたどりしました。

2) 川渡のことで自慢したいこと

川渡のことでじまんしたいことという題で

お父さん お母さん おじいさん おばあさんに

聞いてくる

書いてもらってくる

という宿題をだしました。

子どもたちはそれをノートにかいてきて 貼って

読んで発表しました。

おじいさん、おばあさん、おとうさん、おかあさんからきいてきたことをほんとうによくかいてありました。

家の人たちが いろいろと考えて、子ども達に話してくれたのだと思います。

子ども達のこの発表が

川渡小学校のまわりを調べるという授業を充実する大きい力になりました。

3) 川渡の馬市のこと

川渡の年取った人たちは馬市のことはよく知っている。

8. 授業で

1) 子ども達は

とってもいい顔をして授業に参加していた。

授業中の子どもの目はきらきらそていました。

発表したくて何回も高く手をあげるいました。

発表したなかみもとってもよかった。

発表したことを先生に取り上げてもらうのだからすごくうれしいのでしょう。

発表するなかみはお爺さんおばあさんにおしえられたものだから

それはなんとしても発表してかえりたいのです。

それをほめられるのはうれしいのでしょう。

発表したことは先生が知らなかったこともあったようです。

お爺さん、お父さん おばあさん お母さんは

自分の家の子どものために がんばっていただきました。

2) 先生の発問は

そんなに大きい声ではなかったが

こどもに発問の意味はしっかりと伝わっていたようです。

子どもの発表もよくきいていて

子どもの発表をしっかりとくりかえしていました。

9. 地図をつかうということは

- ・ 国土地理院の50000分の1の地図

25000分の1の地図

住宅地図

をつかうということは 美也子先生の強い意志であったのです。

生活科で 国土地理院 住宅地図を使ったことが

美也子先生の 川渡小学校のまわり という生活科の授業を
高めたことになったのでしょう。